

2025



明治大学
国際日本学部
岸 磨貴子

大学とダイバーシティ

アートと共創でひらくキャンパス多様性

はじめに

ミニ講義

ワークショップ

振り返り

Q&A



はじめに：15:05-15:20

本ワークショップの目的

本ワークショップでは、アートベース・リサーチを取り入れながら、大学における多様性の価値を（再）発見し、それを活かした学びの場を共に考えます。キャンパスには、異なる文化・価値観・経験を持つ学生たちが集い、出会い、学び合う可能性が無限に広がっています。本ワークショップでは、そんな「多様だからこそ生まれる学び」をデザインする方法を、遊び心と創造力を大切にしながら探求していきます。参加者の皆さんには、協力しながら新しい視点を発見し、想像力を刺激し合う体験をしていただきます。さらに、その対話の中で生まれた気づきをもとに、自分の教育・支援の現場でどう活かせるかを考え、実践につなげるヒントを見つけていきましょう。

アートベース・リサーチとは？

アートベース・リサーチ（Arts-Based Research：ABR）とは、アートの手法を活用して「見えにくいもの」を捉え、新たな問いや気づきを生み出す探究のアプローチです。ABRを通して、言葉だけでは捉えきれなかった「違い」や「つながり」への理解を生み出すことができます。本ワークショップでは、ムーブメント、ビジュアルアート、演劇の3つのアートのジャンルを使った活動を体験していただきます。大学という多様な価値観が交差する場において、ABRは学生同士の対話を促し、協働を深める実践としても有効です。学生が自身の経験を表現し、他者と共有することで、共に学び合う関係を築くことができます。また、こうした創造的なアプローチは、より包摂的で対話的な学習環境をデザインする手がかりとなるでしょう。

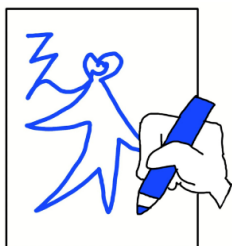
プログラムの内容 15:20-16:20

Mapping ME (10分) ムーブメント



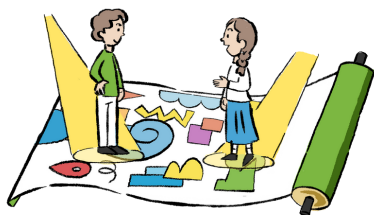
「育った場所は？」「あなたの人生を変えた場所は？」
いま・ここを世界の中心にした地図の上に、自分の場所を探していきます。そして、その場所で経験した自分の物語を紡ぎ出していきます。近くにいた人と話してみると、思わぬ共通点がでてくるかもしれません。

一筆書きで自己紹介 (20分) ビジュアルアート



「あなたの強みを一筆で書いてください。」
一なぜ、この部分はとんがっているの？
一頭の部分がハートの形なのはなぜ？
このように問いかけ、書いた人は必ずそれに何らかの意味を付けて答えていきます。たくさん問いを出せば出すほど相手のことを知ることができる自己紹介です。

100%フォーラム (30分) 演劇手法+ストーリーテリング



100%TOKYOをもとにしたドキュメンタリ演劇です。参加者がつくった質問にYES/NOに分かれ、そのテーマについて物語っていきます。同じ立場でも意見が違ったり、違う立場でも共感したり、多様性から多くの気づきや発見を生み出していく活動です。
参考映像：Ⓜ F/T13 『100% トーキョー』 リミニ・プロトコル

※時間があれば、他のさまざまな活動を紹介します。

参考文献

パトリシア・リーヴィー（著）岸磨貴子・東村知子・久保田賢一（訳）（2025）『研究法がアートと出会う時—アートベース・リサーチへの招待』，福村出版

本書は、ビジュアルアート、小説、詩、ダンス、映像、音楽などさまざまなアートのジャンルをつかった「創作」を通した他者理解、異文化の探究の事例が紹介されています。